



**Sr.池崎の**

**ブラジルから**

**Boa tarde!**

(ボア タールジ! : こんにちは!)

**第12回目 10月2日(土)~10月8日(金)までのレポート**

## 10月2日～3日(土、日) マリンガ滞在特記 1-①

マリンガに滞在し、そろそろ1ヶ月になります。これまで学校や事務所訪問を中心に報告してきましたが、マリンガ滞在特記では、マリンガ滞在中で気がついたことをいくつか取り上げ報告します。

右写真を見てください。マリンガ中心地を写したマリンガの街です。緑の向こうに高層ビルも建ち並び、近代化が進められていることが分かります。人口約32万人、豊橋に近い規模です。そして、その緑の多さはものすごく、以前にも報告しましたが、道路という道路には左写真のよう



な街路樹があり、樹木が道に覆い被さっている状況です。全体的には、美しい街です。ただ樹木が多いただけあり、道には葉や花卉が多く散乱し、その処理を十分に行き届かせる難しさがあります。また、クリチバほどではないですが、道にはゴミが多いです。クリチバの中心部は、ゴミを処理する職員がいて絶えずゴミ拾いをしていましたが、マリンガにはそのような人はいません。そのため、マリンガでは、ゴミが落ちたままになっているので、気になってしまいます。しかし、クリチバに比べ、落書きはずっと少ないです。全くないわけではありませんが、落書きを見つけることの方が稀です。

交通状況は、クリチバとよく似て、車社会です。また、クリチバほどバス網が発達していないのか、バスの本数も普通程度です。車の量は街中でも渋滞しない程度ですが、道の両側が駐車域になっているので、なんとなく、すっきりしていません。クリチバ同様、一方通行も多いです。交通関係でおもしろいものの一つが信号機です。クリチバの信号機は、右写真のように、縦長



で、青と赤が数段階（ここでは5段階）になっており、次の色に変わる数秒前から、点滅代わりに点灯位置が順次変化し、信号の変化を事前に知らせるような仕組みになっています。青と赤の間に黄がありますが、黄だけは一つです。交通安全的には、とても良い仕組みだと思います。信号機に関しては、クリチバ同様、歩行者信号があるところはほとんど無く、交差点を渡るときには車用信号を見て渡るしかありません。ただ、クリチバよりも信号機は見やすい位置にあるので、横断中に身の危険を感じることは少ないです。



おもしろいもののもう一つに、道路のこぶがあります(左写真)。これは、想像できるように、スピードを出しすぎないようにするためのもので所々に設定されています。街中と高速道路にはありませんが、街から少し離れ、信号機も少なくなりスピードを出せそうなあたりにいくつもあります。事前に100mおきに標識がありスピードを落とせるようになっています。

## マリンガ滞在特記 1-②(ブラジルでの選挙)



左の写真を覚えていませんか？ブラジルで選挙があると書いた時の写真です。今回は、選挙特集です。

今回の選挙は、ブラジル大統領、国会上院議員・下院議員、パラナ州知事選挙、パラナ州議員の4種類の選挙を同時に行います。かなり、大がかりな選挙です。しかも、ブラジルという国は、選挙結果により国や州の進む道が大きく変化するようで、そういう意味でも大きな意味を持ちます。また、サッカーワールドカップやオリンピック開催も決定している中で、次の4年間でブラジルがどの方向に進むかは、日本人の私でも興味あるところです。日本も、東京オリンピックを機に大きく発展したように、是非、ブラジルにもそうあって欲しいと思います。街中には左上写真のような車だけでなく街宣車も走り、また、交差点などには、立候補者が分かる立て看板も出され（右写真）、日曜日が近づくにつれ、かなり選挙一色になっていました。



今日は、投票日ということで、植田さんご夫妻に同行させてもらい投票所へ行ってきました。



ブラジルでの選挙は、なかなかできない経験です。投票は、学校で行います。各教室が投票会場となり、10教室ぐらいが会場になっていました。まず受付をしますが（左写真）、受付をしている人は、市民の中から無作為に抽出された人で、市の職員でもアルバイトでもないそうです。選ばれた人はかわいそうです。左写真で、教室後方に

段ボールで囲んである箇所がありますが、そこが投票場所です。段ボールで良いのか？と行ってしまいます。右写真は、香代子さんも受付をしている所です。なんと、私も、同席させてもらえるように許可を得、全てを見させてもらいました。台帳があり、持参した身分証明書と照合します。ブラジルには住民票のようなものはないと聞いています。10年に一度の国勢調査があるだけということなので、この選挙の台帳は、国勢調査の資料から作ったのでしょうか？ブラジルの選挙権は16歳からあり、18歳からは義務だそうです。ですから、18歳以上は全員行かなくてはなりません。ちなみに選挙に行かないと罰金だそうです。



受付後、いよいよ投票です。段ボールの向こうには、一台機会が置かれていました。立候補者には、それぞれ固有の番号が付けられているので、自分が投票したい人の番号を入力して投票を終えます。つまり電子投票です。広い国土ということもありますが、かなり進んでいます。今晚9時頃には態勢が判明するそうです。すごいです。



## 10月4日(月) マリンガ市教育局訪問

今日は、マリンガ市の教育局を訪問しました。市の教育局は州とは独立して教育行政を行っているのですが、各市を訪問するたびにそれぞれの市の教育行政の特色を学びたいと思います。

マリンガは、人口約 32 万人で、パラナ州内で 3 番目の比較的大きな都市です。市内で市立の学校に通っている（6～10 歳の）子は 17000 人いて、学校数は 43 校です。同年齢の子は他に私立の学校に通いますが、それが 11 校ぐらい（この数ははっきりしない）あるそうです。

今日の話の中で、興味深かった一つが、一日制への流れです。市立 43 校の内、完全な一日制をとっているのが 1 校（今年開始。アプカラナに比べると完全に少ない）。マステーションといって、2 部制だが、一方では基礎的な一般の教科学習（国、算、地、歴、理、美、体）を行い、反対の部で特別な内容（レク、補習、劇、音、ダンス、工作、チェスなど）を指導する学校が、昨年は 2 校で現在は 10 校あるそうです。マステーションは、完全な一日制ではないですが、子どもが一日学校にいるという点では、一日制に近いといえます。それが、ここ 1～2 年でかなり増え、マリンガでも一日制へ流れていることが分かります。ただ、今後この流れは続くのかという問いに対しては、一日制はかなりの経費が掛かるので増やすことができないが、マステーションは、空き教室さえあれば増やしたいとやや消極的です。そこには、市民の希望はあるものの経費が掛かるという現状があるからだそうです。

次の話題は、市教育局に在籍する教務担当（指導員のような人）の学校訪問です。話の中で、この人達が、毎週学校を訪問し授業を見たり、子どもや先生と懇談したり、学校の抱える授業に関する問題を解決しているという話題です。これはすごいと思い、詳しく聞きました。実際は、毎週訪問するのは確かで、一人あたり 7 校の割り当てを、月～木曜日の午前と午後に訪問します。教務担当は 6 名いるので、1 週間で 43 校を全て回れます。ただし、訪問内容では、それほど成果はなく、以前は市の教務担当と学校の教務担当が閉じこもり話すだけだったのですが、ここ 1～2 年で、子どもや一般教師との懇談も入れるようになった程度で、まだ授業はさらっと見るだけで指導助言を行うレベルではなく、今後徐々に取り組みたい段階だそうです。このことが完成するとマリンガの教育レベルも向上すると感じました。

最後は、ちょっと？と思うことです。市の教育局では、先生方を主な対象として年に 4 回雑誌を発行しているそうです(右写真。1 号約 50P、5000 部)。内容は、教育に関する国の動き、すばらしい学校の紹介、先生方が参考になる情報（指導法など）、すばらしい取り組みをしている先生の紹介などです。ここまでは、とてもすばらしいと思ったのですが、冊子の体裁も立派だったので、1 号発行するためのお金を聞いたところ、1 号約 200 万円だそうです。つまり、年間 800 万円かけます。今、日本では、来年度の予算を考えている時期だと思いますが、大変うらやましい話だと思います。



## 10月5日(火) 校長研修会参加とマリンガ市立学校訪問



今日の報告内容は、いずれも、昨日の市事務局との情報交換の中で話題になったことを直ぐに依頼し、実現して頂いたことです。一つは研修への参加、もう一つはマイスエデュカッソンの授業と教務の学校訪問を実際に見る事です。

まず、研修についてです。これまで、研修があるという話は州でも市でも聞いていましたが、実際に研修に参加したのは初めてでした。本日は校長を対象に、脳の働きと子どもへの指導に関する事を、事務局の方が講師となり（左写真上）、パワーポイントを使い、講義形式で進めていました。「落ち着いた学習」「体験学習の重要性」「学習形態の多様化」のそれぞれを脳の働きと関連づけ話していました。子どもの人間性を育てる内容にまで踏み込んだ、良い研修でした。このような研修が、校長だけでなく各校の教務担当や一般教員にも行われており、マリンガの教育もなかなかいいなと思いました。

次は、学校訪問です。訪問校は、新1年～旧4年まで（5学年）で520名在籍する朝、昼の2部制の学校で、520名の内、約300名がマイスエデュカッソンで1日学校に滞在しています。マイスエデュカッソンでは、4時間を1時間毎に区切り、4コマ異なった内容のことを学習しています。本校では、コーラス、文学、パソコン、ダンス、体育、手芸、理科の実験、英語、補習（宿題含）を行っています。理科の実験と英語は新3年生からですが、他は新1年生から全ての学年で行います。コーラス（写真右上）では、ブラジルに来て音楽の授業を見たのは初めてでした。校舎に入ったとたん歌声が聞こえ、いかにも学校だなと雰囲気を感じさせてくれました。また、理科の実験（写真右下）では、人工着色料で色づけたものと自然のものを使って色づけたものの違いについて実験している楽しそうな姿がありました。日本の1日制とは違う形ですが、子ども達を全人的に育てる新しいブラジルの教育がここにあるように思いました。



最後に、教務の学校訪問です。見られる方としては嫌な場面だと思いましたが、打ち合わせをそのまま参観したいと依頼しました。話している内容は、最近行った国語力調査の結果報告、体育指導に関する事務局からの指導でした。私が見ていたこともあるかもしれませんが、真剣に報告や指導をしていました。最後に、このような会のあり方について尋ねたところ、本日のような内容の他に学校が抱えている問題の相談なども行い、学校と事務局が問題を共有し問題解決に当たるので、お互いの距離感が近くて良いと双方が言っていました。とても良いことだと思いました。

## 10月6日(水) マリンガ日本語学校訪問とセズマール大学での講演



今日は、午前中にマリンガ日本語学校を訪問しました。

マリンガ日本語学校では、本日、JICA から派遣されている日本語シニアボランティアの先生が授業をされるということで、本日の訪問にしました。マリンガ日本語学校のことも知りたいし、JICA の方とも話をしてみたいと思いました。

JICA の方は、広島・長崎に投下された原爆の話から、平和の尊さを知ってもらおうと授業を設定していました。用意した資料を見せながら（左写真上）子ども達に原爆が投下さ

れた当時の様子や今も白血病で苦しんでいる人がいる現状を説明し、平和の大切さについて考えさせていました（左写真下）。その後、広島原爆に関するアニメビデオも視聴させ、授業のイメージ化を図ることで、子ども達の心に残る授業になったように思います。

マリンガ日本語学校には、現在、子どもから大人まで含めて 130 名ほどの生徒が在籍しています。その 80%が 6～14 歳の子ども達だそうです。アプカラナ市もアサイ市も日本語学校の生徒が激減していましたが、ここマリンガでは、それほどの減少はないそうです。アプカラナやアサイからこちらに移り住んでいる人も結構いるようです。また、最近の特徴として、非日系の人で日本語を学ぶ人が少しずつ増えてきているようです。

日本語学校の特徴は、他の市でもそうですが、単に日本語を教えるだけでなく、日本の学校に負けないくらいの様々な行事を行い、その中で日本文化を継承していこうと考えています。例えば、ひな祭り、習字、体育大会、林間学校、学習発表会、リーダー講習会、ファッションショー、お話会、慰霊祭、文化祭など、毎月のように行事が組まれています。このようなイベントを通し、ここに通う子ども達は、人間としての成長も同時に図られているようです。先生方は忙しいですが、大変素晴らしいことだと思いました。

日本語学校での、ポルトガル語教室の開催についても、お願いしてきました。



夜に、セズマール大学というマリンガでは最も大きい私立総合大学教育学部の学生を対象に講演を行ってきました。本講演は、マリンガ州教育事務所で私が日本の教育について話をした時に、是非、大学でも話をしたいと依

頼を受けたものです。各場所で日本の教育について説明しているので、未来の教師達にも是非聞いてもらいたいと思ひ引き受けました。

100 分間の講演時間のうち、70 分間で日本の教育のめざすところ、教育制度、教育内容について話しました。残り 30 分は質疑応答の時間でしたが、質問が絶え間なくあり、質疑応答の時間が足りないくらいでした。



## 10月7日(木) マリンガ市立 ジョゼ アニセト 校訪問

「市内の他の学校と変わらない普通の学校です」今日の訪問校へ事前情報でした。

いつも同様、校長先生に学校の概略を聞き始めました。生徒数、時間帯、指導教科、クラス数、指導学年、教員数のそれぞれを、午前と午後の部に分けて聞きとります。ここまで聞き終わって、これまでの訪問校の時と今日では、明らかに異なっていました。それは、これまで、上記質問に全てさらさらと答えた校長先生は誰もおらず、教務担当や事務さんの助けを借りる状態でした。また、今日の校長先生は、受け答えも大変落ち着き、はっきりしていました。この感想を、その場で正直に話したところ、横にいた事務局の方が、この校長先生は、事務局も他校での校長経験もあり、とても優秀な方だと教えてくださいました。さらに、マリンガ市の校長は、これまでブラジルで聞いてきた単純な選挙ではなく、筆記試験・精神科医による面接、親や教師による評価、履歴書審査等によって選任され、それ相応の人がなるのだということも分かりました。



次に、先生方との座談会の雰囲気です。学校を多く訪問すると、先生方の雰囲気から学校の様子が掴めるものですが、座談会が始まり数分で、良い学校だなと感じる職員のまとまりがありました。その感覚は、後の校内見学で実証されました。座談会中、一人の先生が本校でのイベントを写真の記録とした掲示物を示しながら説明し始めました（左写真）。これまで、これだけ多くのイベントを行いかも写真による掲示物を作成している学校はありませんでした。イベントも掲示物も大変日本的でした。ちなみに、左写真のイベントは、先生方のチームが劇をし、子ども達に見せたものです。先生方のまとまりはこんな所からも生まれているのです。

校内巡視では、子ども達の整然とした学習風景と明るさの両面を見ることができました。右上写真は1年生のクラスです。はじめは、通り過ぎようとしたクラスですが、あまりにも真剣に学習に取り組んでいたのが、私が思わず覗きこみ、最後に子どもが手を振ってくれた姿です。ブラジルではめずらしく落ち着いた授業風景でした。また、右下写真は、イベントの一つの発表会の練習風景を見た後に、子ども達と撮ったものです。練習風景で踊っている姿も立派でしたが、なにより、披露している子以外の見ている子の態度が、とても立派でした。通常であれば、披露している子以外の子はよそ事をしたりすることが多いです。しかし、このクラスの子は、友達の演技中は真剣にその踊りを注視していました。先ほどの1年生の授業風景と重なるものを感じました。



このような子ども達の落ちついた学校生活の基礎には、ここで働く先生方の細やかな心遣いが数多く積み重ねられていることを、校長先生の話や参観の途中の光景などで見ることができたり感じたりすることができました。日本的と言ったら失礼かもしれませんが、とても細やかな心遣いのある落ち着いた学校訪問でした。

## 10月8日(金) マリンガ市長表敬訪問&マリンガ市教育局での日本教育説明



7日(木)にマリンガ市長を表敬訪問しました(紙面の都合で、昨日分には掲載できず本日分へ)。正式な形では忙しい市長の予定が取れず、植田さんを通じ、夕方、無理に設定して頂きました。訪問では、豊橋市長・教育長からの親書と豊橋からの土産をお渡しした後、主に、私のブラジル派遣の目的、マリンガ市立学校を訪問した時の感想、ブラジル滞在中の様子などを話しました。市長からも、豊橋市にはブラジル人児童が多く世話になっていることへの感謝と以前に使節が豊橋を訪問した時のお礼の言葉を頂きました。豊橋に対しては大変良い印象を持っていらっしゃるようで、是非訪問したいとおっしゃっていました。最後に、記念写真を撮って(真ん中がマリンガ市長、右が植田さん)表敬訪問を終えました。

8日(金)は、マリンガ市教育局で、日本の教育について説明しました。この日は、教育局内の出張が少なく大勢集まれるので、この日に設定して頂きました。「ブラジルと日本の比較」「豊橋とマリンガの比較」「日本の教育制度」「日本の教育のめざすところ」「学校での日課」「教育内容」について説明をした後、学校生活の分かるビデオ紹介をしました。

紹介後、質疑応答を行いました。質問がとぎれることなく出て、終了時間を延長して大丈夫なのか私が心配するくらいでした。ここでの、質問では、これまでに出てこなかった質問がいくつかありました。まず一つは、研修についてです。この件については、ブラジルの研修には、まだ弱い面があると思い、豊橋の研修体系について説明しました。特に、校内研修・研究部研修については、ブラジルでは全く行われていないことなので大変興味深いようでした。二つ目は、子どもの健康管理についてです。これも、ブラジルでは行われていません。ブラジルには保健室も養護教諭もいません。ですから、学校医による各種検診、校内で行う身体測定を含む各種検査などについても話しました。三つ目は、教師の精神的な病気についてです。これについては、ブラジルでも最近増えているようです。日本でも増えている実態を話し、休暇に入った先生がいた場合の対応についても話しました。ブラジルでも同様の悩みをかかえているようです。マリンガ市の教育は、学校訪問でも分かりましたが、州や他市に比べ水準が高いように思います。それだけに、教育局で出てくる質問も、州や他市に比べレベルが高いように思いました。

